

第 6 回援助効果意見交換会 質問書

(特活)オックスファム・ジャパン

山田太雲

1) 背景:

HLF4 の成果文書に関する交渉の現状は、パリ宣言 (PD) およびアクラ行動計画 (AAA) で合意された援助効果に関する原則とコミットメントを大きく後退させる可能性が高い。とりわけ、援助効果・開発効果向上の進捗をグローバル・レベルで測る枠組みやその指標が維持されない可能性がある。しかし、パリ宣言評価報告その他の様々な調査により、①パリ指標はいくつかの問題があるが、グローバル・レベルでの援助効果向上に役立ってきたこと、②PD 及び AAA の妥当性は、伝統的 DAC ドナーに限らず、全ての開発協力アクターの当てはまること、③グローバル・モニタリング枠組みの存在が、カントリー・レベルでの援助効果向上の重要なインセンティブとして機能してきたことが指摘されている。HLF4 以降にグローバル・レベルで包括的かつ効果的なモニタリング枠組みが維持されなかったら、**我が国がこの間取り組んできた「ODA のあり方検討」を始めとした、ドナー各国の援助改革の重要な国際的後ろ盾が失われることになるほか、カントリー・レベルにおけるドナーと被援助国の力関係が著しくバランスを欠くことで、我が国が HLF プロセスで一貫して警告してきた、「ドナー・ドリブン」の傾向がますます強くなってしまふことが危惧される。**

他方、多様化した開発アクターを包含する新たな枠組みが必要であること、また、アクラとプサンを経たポスト HLF4 においては、進捗測定指標の内容に改善の余地があることも事実であり、これを政治的・技術的妥当性を伴った形で、かつ各国にかかるモニタリング費用を増やさない形で作るためには、HLF4 後に一定の時間をかけて、丁寧かつ建設的な議論をすることが求められる。そこで、HLF4 以降のグローバル・モニタリング枠組み及びプロセスについて、以下の質問にお答えいただきたい。質問への回答に際しては、別添の参考資料『新たなグローバル・モニタリング枠組みに関する見解』および『進捗測定指標改訂版試案』なども踏まえたご回答をいただければ幸甚である。

2) 質問

1. BOD に、「パリ宣言、アクラ行動計画、プサン成果文書に基づいて改訂された指標群に基づく進捗の定期的なグローバル・モニタリング」への強力なコミットメントを盛り込むことを、我が国として支持できないか。
2. プサン後の改訂指標とそのモニタリング・プロセスに関する提案を 2012 年 6 月までに作成するために「技術作業部会 (Technical Working Group)」を設置すること、同作業部会の構成を、OECD ドナー、非 OECD 開発協力供与主体、被援助国、国連システム、および CSOs や議会、地方政府機関などのステークホルダーの間で平等な代表性を持ったものとする、そして、同作業部会による提案に関する広範なコンサルテーションを行うことを明記するよう、我が国として呼び掛けることはできないか。

参考資料(別添)

1. 『新たなグローバル・モニタリング枠組みに関する見解』
2. 付随資料『進捗測定指標改訂版試案』

以上